

仙台市議会議員 菅原正和



【発行人】
 仙台市議会議員(若林区)
菅原正和
 (会派:自由民主党)

【事務所】
 〒984-0827 仙台市若林区南小泉4-9-7
 TEL.FAX 286-5908
 携帯 090-6685-1067

今泉2丁目14付近の用水路落下防止 速やかな対応



小学校の小さなお子さんが、水が流れている水路を見ているうちに落下し、一人で上げれず泣いていたところを近所の方が助けたという事案があり、落下防止の対応を渡辺勝幸県議から依頼され、公園課に緊急性を説明し、依頼から一ヶ月もせずには防護柵を設置していただきました。地域の安全がまた一つ増えました。

南小泉小学校二年生のトイレ改修 速やかな対応



このトイレは様式に変更の予算がつかず、和式便器に洋式の簡易便座を重ね洋式化したもので、スクールサポーターの方が毎日とても苦勞して掃除をしているとの要望を受け、教育局施設課、副教育長に現場の状況を説明し、一ヶ月半で最新式の洋式便器に交換してくれました。子ども達、スクールサポーターからも、すごく喜ばれております。

令和4年 第二回定例会 代表質疑



令和4年 第二回定例会 会派自由民主党 代表質疑

代表質疑とは、定例会に提案されている各号議案並びに市政重要議案についての質疑ができる

各号議案

- 緊急対策に対応した今回の補正予算は、どのような点にポイントを置いて編成したものなのかについて
- 商店街等消費喚起促進事業について
- 生活困窮者自立支援事業費の追加について
- 自立相談支援機関の体制強化について
- 福祉施設等に係る物価高騰対策について
- 給食費の材料費高騰への対応について
- 新型コロナウイルスワクチン四回目接種の費用について
- 家庭ごみ等指定袋管理費の追加について
- ごみ処理施設における原油高への対応について
- GIGAスクール構想について

- 公共交通の運行継続を支援するための奨励金の支給に要する経費について

市政重要議題

- 交流人口の回復、拡大に向けた取組について
- 福島県沖地震について
- 宮城県津波浸水想定への対応について
- 災害文化の発信について
- 待機児童ゼロを達成できた要因について
- 女性・若者活躍推進会議について
- 東部のにぎわいづくりにおける協議、連携の状況について
- 県が進める四病院の再編について

～答弁要旨～

○市長（郡和子）

■補正予算編成のポイントについて

国の総合緊急対策を受けて、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、生活者支援と事業者支援、この二つを柱に据えて今回の補正予算案を編成した。

生活者支援としては、食材価格が高騰する中、特に、子供、高齢者、障害者の方々などが健康的な食事を確保できるよう配慮し、事業者支援としては、厳しい経営環境にある公共交通事業者や商店街等の事業者に対する支援などを中心に必要な予算を確保した。

■商店街、国分町の現状認識及び今後の支援について

補正予算において、商店街等買い回り促進キャンペーンに係る予算の増額をお諮りをしてる。市民の皆様の消費喚起を図り、商店街等の売上げ向上や新規顧客獲得の支援を進めていく。

■仙台・青葉まつりなどへの評価と今後の取組について

市民一人一人が、このまちに対する誇りや、また愛着を育て、まちの活力ともなっていくことも改めて認識をした。

これまで得られた知見も生かし、安全・安心を確保しつつ、関係機関とも連携しながら、イベントを着実に開催していくことで、まちににぎわいを取り戻していく。

■交流人口の回復、拡大に向けた取組について

本市が重点市場と位置づけておりますタイと台湾の旅行会社に旅行商品の造成を働きかけるとともに、現地でのプロモーションを早期に再開する。また、仙台空港の国際線受入れ再開が見込まれる中、インバウンドの回復に向けては直行便就航が不可欠であり、機を逸することなく、関係機関とも連携をして、航空会社への働きかけを強化していく。

国内についても、中心部や秋保、作並、沿岸部など、それぞれの地域の特性や多彩な魅力をさらに磨き上げ、首都圏をはじめ国内各地へのプロモーションなど、仙台・東北への誘客促進に向け取り組む。

■宮城県津波浸水想定に係る地域ごとの避難計画の見直し及び市民への周知について

新たに浸水が見込まれる指定避難所につきましては、避難計画の見直しを8月頃をめどに進め、避難所を単位とした地域の皆様への説明会をきめ細かく開催をし、新たな避難方法の周知を図っていく。また、10月には、津波からの避難の手引を修正の上、広く市民を対象とする説明会をし、11月には、新たな避難エリアに対応した避難訓練を実施する。

■災害文化並びに震災の経験と教訓の発信に関して

近年、大規模な自然災害が続いている中、東日本大震災の教訓を踏まえ、自然の猛威と共に生きる知恵を創造すること。災害は発生するものと認識した上で、災害が起きてもそれを乗り越えるすべを社会全体で共有し日々暮らしていくこと。この知恵とすべを災害文化として本市から世界に発信し被害の低減を図っていくことこそ、東日本大震災の被災地における最大都市である本市の重要な役割であると考えている。

今後とも、国内外の関係機関と連携をし、震災の教訓や災害文化の取組を内外に積極的に発信していく。

■仙台防災枠組の進捗に係る自己評価について

国際的な指針に本市の名が冠されたことの意義を踏まえ、本市が率先してその推進に取り組んで、また、枠組の理念を体現する都市となって世界に発信する責務があるものと考え、今般、東北大学と連携をして、仙台防災枠組の趣旨に沿った取組の進捗をハード・ソフト両面から可視化することにチャレンジをすることとした。

今後、この取組の成果を市民の皆様方と共に共有し、本市の取組が他の地域の防災・減災にも良い影響を及ぼすことができるよう、国や大学、関係機関等との連携を強めながら、国内外に広く発信をし、世界に貢献していく。

■待機児童について

市長就任以来、子育て支援策の充実を市政の大きな

柱といたしまして、令和四年度の待機児童ゼロを目指し、子育て家庭の期待に応えたいとの強い思いの下、この間各般の取組を進めてきた。

保育施設の整備により、およそ3,800人分の受皿の拡充を行うとともに、保育士確保に向けました本市独自の助成や、保育サービス相談員による支援体制の充実などを図ってまいりました。

ハード・ソフト両面の取組に加えまして、保育施設や、また私立幼稚園の皆様方の御理解と御協力をいただき、このたび待機児童ゼロを達成することができたものと考えております。

■女性・若者活躍推進会議について

仙台の持続的な発展のためには全ての市民の皆様、とりわけ、さらなる活躍の可能性を秘めた女性、若者が生きがいを感じながら持てる力を十分に発揮できることが重要であると考えている。

現場で支援活動に取り組んでいる民間団体の皆様と、困難を抱える女性や若者の現状、支援の課題などについて、私自らが率直な意見交換を行って、取るべき施策の方向性を見出すために、この会議を立ち上げた。

制度のはざまにある方も含めて支援が必要な方々に着実に届くよう、今年度、残り二回会議を行いまして、その成果を効果的な仕組みにつなげ、全ての市民の皆様が居場所を持ち、お一人お一人が、こうありたいというそのお気持ちを実現できるようなそんなまち仙台を目指していく。

■東部のにぎわいづくりに向けた連携、協働について

今年度、エリアを取り巻く多様な主体の声や意見をお聞きし、将来ビジョンの策定に着手するとともに、大きな課題の一つでもある回遊性向上の具体策検討などを進めている。

市民、事業者、関係団体、国、県や近隣自治体等と連携しながら、海浜エリアの新たな魅力とにぎわいの創出に全庁を挙げて積極的に取り組んでいく決意である。

■四病院の再編に関して、本市の対応と県等による進め方について

県からは、この「本市の考え」に対する説明や意見などは何ら示されておりません。本市はもとより、市民の皆様や医療関係者の方々への説明のないまま話が進められておりますことは、大変遺憾に思う。

名取市、富谷市両市から候補地の提案があった。しかし、どのような役割を果たす病院を目指すのかといった方向性や、規模あるいは診療内容等が全く明らかにされていない現状にあり、本市及び仙台医療圏への影響を評価することは、いまだに難しい。

一方、この間、仙台赤十字病院と東北労災病院の両病院並びに経営主体との意見交換を重ねてきたが、その中では、それぞれ様々な課題があると伺っている。

本市として、県に対して、引き続き情報提供を強く求めていく、両病院が市外に移転した場合も想定して、その影響等につきましても、本市で今年度実施する市内医療機関等の現況調査の結果なども活用の上、確認を行っていく必要があると考えている。

それも踏まえまして、現に医療の提供を受けている方々も含め、市民の皆様に対し、必要な医療が確実に提供されますよう、本市の取るべき具体的な対応策を検討

していく。

○危機管理局長兼危機管理監(木村洋二)

■県の津波浸水想定に関連し、避難の丘の改修等について

本市に五か所あります避難の丘のうち、北側に位置する三か所の避難の丘につきましては、頂上部分において20から50センチメートル程度の浸水が見込まれる。

今後も津波避難施設として活用できるよう、関係局との間でかさ上げ等具体的な改修方法を検討している。

■避難の丘への対策が取られるまでの間の来訪者の安全確保について

岡田地区については、当該避難の丘以外に津波避難施設等がない状況、周辺状況を詳細に把握しながら来訪者の避難先の確保や避難方法について関係局と検討していく。

荒浜地区については、二か所の避難の丘の代替先として、既に津波避難施設に位置づけている震災遺構仙台市立荒浜小学校に避難していただくことを想定している。避難可能人数が大幅に減少することから、沿岸部でイベント等を開催する場合などは、関係局間で必要な調整を行っていく。

■新たに浸水の範囲に含まれる地域の世帯、人口について

現時点で県の提供データに基づき精査をしている、概算の数字では、最大で19,000世帯、40,000人を見込んでいる。

○健康福祉局長(加藤邦治)

■新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金の支給実績と支給までの期間について

支給実績につきましては、本年五月末時点で約2,600世帯の申請を受け付け、約1,800世帯に支給を開始しており、支給額は約3億円でございます。また、当初の三か月間の受給期間を終了しても自立に至らない世帯につきましては、再申請が可能となっており、これまで約六百世帯を受け付け、そのうち約500世帯に支給を開始し、支給額は約1億円でございます。

申請から支給までの期間につきましては、おおむね1か月以内を目途に行っている。

■生活困窮世帯への支援と支援への取組姿勢について

困難の状況にある方は、多様で複合的な課題を抱えていることが多く、それぞれの課題に応じた継続的かつ包括的な支援が必要。現在行っている施策と併せ、引き続き、支援機関とも連携しながら、息の長いきめ細かな支援に取り組んでいく。

■福祉施設等に係る物価高騰対策としての食材料費の助成について

事業者が利用者負担を増やすことなく食事を伴うサービスを安定的に提供することができるよう、食材料費の物価高騰分を助成することとした。

今後、助成金の速やかな支給に向け準備を進めていくとともに、引き続き、物価変動等の状況や事業者等の声も把握しながら、施設等が安定して運営され、利用者へ適切なサービスが提供されますよう努めていく。

○子供未来局長（小林弘美）

■入所保留児童及び欠員について

個々の施設から運営に関する相談があった場合には、地域の保育需要や欠員の状況なども踏まえて定員変更に応じるとともに、事業者の皆様の意向や状況について定期的な把握に努めることで、安定的な保育の提供に取り組んでいく。

地域ごとの需要と供給のミスマッチなどにより希望する保育施設に入所できない入所保留児童が一定数いる。引き続き、入所保留が多い一歳児の受入れ枠の確保など、既存の保育施設の有効活用を進めるとともに、保育サービス相談員によるきめ細かな相談支援により、入所保留児童を一人でも減らしていけるよう取り組んでまいる。

■兄弟姉妹の別施設入所について

現在、他都市における取組状況の精査をしている。今後は、その結果等も踏まえ、利用調整の見直しなどの検討を進め、兄弟姉妹が同じ施設に入所できますよう取組を進めていく。

○環境局長（細井崇久）

■家庭ごみ等の指定袋の在庫及び価格について

指定袋の代金につきましては、ごみの収集、運搬及び処分に係る手数料として徴収しているもので、したがって、今回の原油高等に伴う指定袋の製造費の増加を理由とした価格の改定は考えていない。

■指定袋の安定供給に向けた方策について

発注時期や契約期間の柔軟な運用、適正な在庫量などについて改めて検討を行い、指定袋の安定供給につなげていきたい。

○経済局長（村上薫）

■商店街等消費喚起促進事業について

商店街や国分町等の買い回りを促すデジタルスタンプラリーを実施することで、新規顧客の獲得と売上げの向上につなげるものであり、今般の物価高騰等の影響を踏まえ、より一層の消費喚起や商店街等の支援の強化を図るため、補正予算をお諮りしている。

7月に、取扱店の募集を行い、10月ごろの事業開始を予定している。

今回の事業の実施については、過去に実施した商品券事業において大型店や客単価の高い店舗に利用が集中したことを踏まえ、小規模な店舗にも数多く足を運んでいただけるよう、店舗の規模にかかわらず1,000円以上の買物をした場合に1ポイントを付与することとしている。

4店舗の買い回りで2,000円のデジタル商品券を付与し、割引率が最大50%であることをPRすることで、より多くの市民の皆様へ御利用いただけるものと考えている。

対象につきましては、参加を希望する個人消費者向けに小売、飲食等のサービスを提供する実店舗を有する事業者としており、商品券事業の実績から最大で5,000店舗の参加を見込んでいる。

○文化観光局長（金子雅）

■宿泊事業者への支援について

本市では早期の復旧を後押しすべく、宿泊事業者への事業継続支援金制度を創設し、先月、受付を開始した。

今後、こうした支援制度の活用を促していくとともに、本市独自の宿泊促進キャンペーンを実施するなど需要喚起も図りつつ、交流人口拡大の要となる宿泊事業者の下支えをしていく。

○都市整備局長（八木裕一）

■本市における路線バス及びタクシー事業者の現状認識について

本年3月に策定いたしました仙台市地域公共交通計画に基づき、路線バスについては、複数の事業者間で運行ダイヤを調整するなどの効率化を図りながら、事業者の経営改善や利用者サービスの向上に係る具体策について検討を進めている。

また、地域交通など地域の実情に応じた多様な移動手段についても、地域住民の皆様や交通事業者との意見交換を重ねている。

引き続き、市民生活を支える持続可能な公共交通ネットワークの構築に向け、具体的な取組内容を定める利便増進実施計画を順次策定しながら、公共交通の利便性向上や運行の効率化、円滑化につながる施策を鋭意実施していく。

■集団移転跡地利活用事業による施設の避難対策について

利活用事業者に早く内容をお知らせすることが重要と考え、5月下旬に事業者説明会を行い、浸水が想定される避難の丘を避難先としている事業者には、他の避難先の候補をお示し、当面の対応をお願いした。

また、避難の丘への対策が取られるまでの間の来訪者の避難方法について、今後、関係局と検討し、その内容を踏まえ、事業者に避難計画の見直しや来訪者への周知を図っていただくよう働きかけることにより、施設に関わる方々の安全を確保していく。

○若林区長（佐々木淳一）

■海浜エリアのにぎわいづくりにおける協議、連携の状況と、貞山運河の利活用に関する本市の取組について

区役所が名取市などにも加盟を呼びかけ、現在も事業者関係機関等の参画拡大が進む海手ネットワークの中で、回遊性向上やエリア全体の広報、来訪環境向上等に関する検討を深め、事業化に向け取り組んでいる。

また、貞山運河につきましては、現在、藤塚地区において、事業者や関係機関、地域団体、名取市とも連携をしながら、運河への親水護岸整備による名取川河口域の回遊性向上について検討を行っている、引き続き、新たなにぎわいと交流の創出、貞山運河の利活用に取り組んでいく。

○教育長（福田洋之）

■学校給食の材料費高騰について

現在、学校給食におきましては、栄養士が必要な栄養価に配慮をしながら、比較的安価な食材への切替えなどの工夫により日々の献立を作成している。

今後も高騰が続いた場合、このような工夫だけでは対応が難しくなる可能性があり、今般、予算の増額補正をお願いするもので、これにより、様々な食材を有効に活

用し、引き続き、児童生徒に対しての充実した学校給食の提供に努めていく。

■市立高校等の情報端末整備について

情報端末を各家庭の負担で一斉に整備することは現状では難しいと判断をし、公費による整備とした。

なお、市立高校等の情報端末の更新に当たっては、BYODによる整備を基本としつつ、今後の社会経済情勢なども踏まえながら適切に対応してまいりたい。

■仙台城跡の地震被害発生から、これまでの取組について

有識者で構成されます仙台城跡調査・整備委員会における検討や国の指導を踏まえ、現代工法の活用も図りながら、再び崩落することがないように仙台城跡の復旧に取り組んでいく。

■政宗ビュー及び大手門の整備について

政宗ビューにつきましては、当初の予定どおり植生修景計画を策定した上で、今年度内には樹木の剪定、伐採、除草を行い、杜の都にふさわしい歴史的な眺望の実現を目指す。

また、大手門の整備に向けましては、昨年度実施いたしました地形測量を踏まえ、今年度は大手門周辺の発掘調査計画を作成する予定。石垣の災害復旧と並行して大手門復元に向けた取組が遅れることのないよう、着実に進めていく。

○交通事業管理者（吉野博明）

■市バス、地下鉄の今後の経営状況の見直しについて

令和3年度の乗車人員は、コロナ禍前の令和元年度と比較した場合、市バスは約79%、地下鉄は約82%までしか回復しておらず、乗車料収入につきましても、令和元年度を基準とした場合、2年度、3年度の2年間で、市バスは30億円、地下鉄は75億円もの減収となることが見込まれております。非常に大変厳しい経営状況にある。

仕事や買物でオンラインを活用するなど人々の行動変容が定着しつつある中、乗車人員が以前の状況にまで回復するかどうかが予測が難しいところであり、加えて燃料価格等の上昇についても先行きが不透明である。

資金不足については、一時的に特別減収対策企業債の起債により対応しているものの、今後その償還が本格化するなど、当面厳しい経営状況が続くものと認識している。

■収支改善につながる新たな取組について

IC乗車券の普及や、バスと地下鉄の乗り継ぎ促進等を目的としたイクスカポイント制度を実施しており、両事業合わせて年間約3億7000万円相当のポイントを御利用いただいておりますが、現在の厳しい経営状況において、現行のポイントの付与は収支に与える影響も大きいことから、本制度の見直しについて検討が必要と考えている。

答弁に対して再質問

○市長（郡和子）

■四病院の再編、移転ということについての再度のお尋ねについて

議員のお気持ち、私もそのとおり、同じ気持ちであるところでございます。この間、知事に対しては、繰り返し繰り返し私からも意見を申し上げてまいりました。

また、仙台市として候補地を示すべきではないかというそういう御指摘でございますが、これにつきましては、現状極めて限られた情報しか明らかにされておりません。本市や仙台医療圏への影響を把握できない中で、候補地の提案など具体的かつ重要な判断をすることは難しいというふうに思っております。

本市といたしましては、県、医療機関等との協議を継続いたしますとともに、対応策等について早期に検討してまいりたいと存じます。

○経済局長（村上薫）

■デジタル商品券に関しまして再度の質問について

このデジタル商品券につきましては、事業の目的として、買い回りを促進し、数多く地域の商店街に足を運んでいただきたいということ、そして、これまでその地域の商店街に足を運ばなかった市民の方に足を運んでいただいて、新規顧客としてお買物をしていただきたいということの一つ目的としております。

1,000円を使って何度もという使い方、基本的には複数の店舗を回っていただくということにしてございますので、一人のお客様が最低四店舗を回っていただくということを目的としてございますが、ただ、そのお客様が一人で高額なポイント付与、デジタル商品券の付与とならないよう上限の設定であるとかそういったものについても検討を進めてまいりたいと考えております。

また、デジタル商品券付与の期限につきましては、基本的には予算の範囲の中でデジタル商品券付与した段階で終了というふうに考えてございますが、エリアごとにその商品券の配分額を決定していきたいと考えてございまして、その設定したエリアごとの利用状況の把握に努めながら、状況に応じてその配分を変更したりとか、できるだけ多くの市民の方に利用していただきたいというふうに制度を考えていきたいと考えております。

○交通事業管理者（吉野博明）

■イクスカポイントの見直しに関して

このイクスカにつきましては平成26年から導入をいたしておりますけれども、その目的として、IC乗車券の普及、それから、バス、地下鉄の利用促進あるいは乗り継ぎの促進等を目的に発足して、これまで運用をしております。そういった中で、最初の御答弁で申し上げましたとおり、非常に厳しい状況の中で一定見直しをせざるを得ないと考えているところでございます。

他都市におきましても、令和3年度、コロナが発生してからになりますけれども、令和3年度あたりから、この辺のポイント制度については様々見直しをしております。各市においてその見直しの手法が少しずつ違っております。本市の制度におきましては、基本ポイントと乗り継ぎポイントという制度設計になっておりますけれども、他都市の状況もよく踏まえながら、あと本市の経営状況等も十分に踏まえながら検討してまいりたいと考えております。

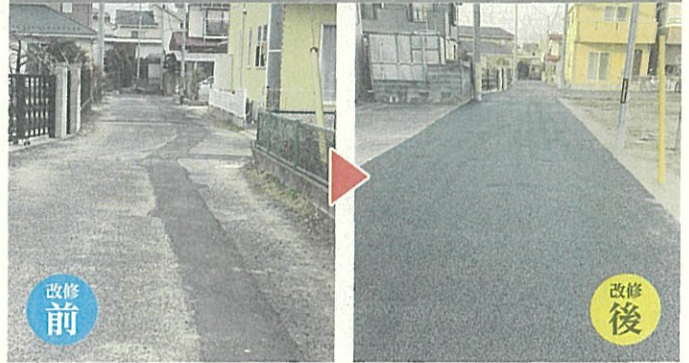
地元の要望を行政に伝え実現!!

▶ 県道235号線中倉交差点 照明灯新設



▲バス路線変更でバスが左折する交差点に歩道、横断歩道を照らす照明が片方にしかなくとても危険でした。新たに照明灯を設置してもらい安全を確保しました。

▶ 南小泉2丁目14-25 私道の舗装の助成



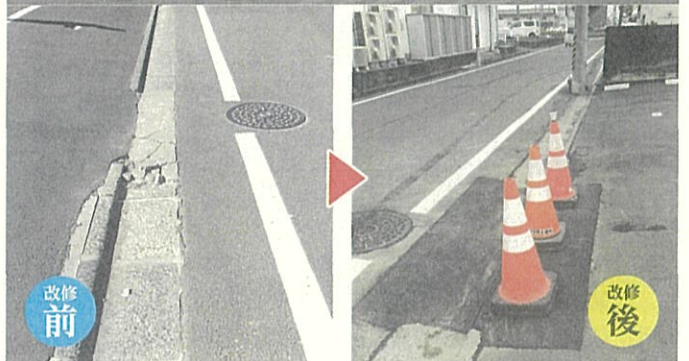
▲住民から要望を受けて、私道の再舗装をしました。90%が助成対象。掘り返しがないように水道管、下水管も同時に仙台市に移管しました。

▶ 遠見塚1丁目5-33 敷地の環境整備



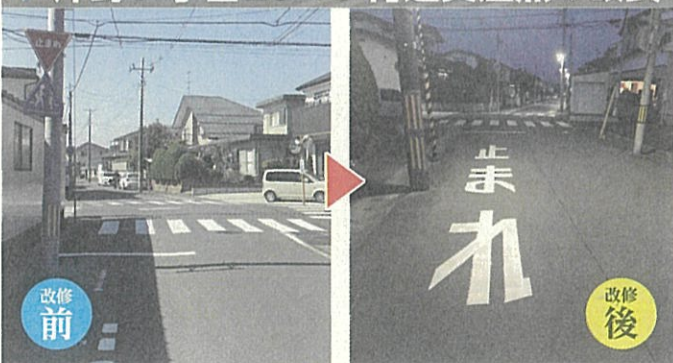
▲この場所は歩道板が敷き詰められており、隙間から雑草が生える状態。ベンチも老朽化しておりアスファルト舗装。新たにベンチも二台設置し住民が憩える環境整備ができました。

▶ 中倉3丁目16-10 側溝改修



▲側溝の場所に電柱が立っており、駐車場整備に伴い電柱を抜いたが、処置が悪く陥没が起き側溝が割れていた。電力及び道路課で再整備をしていただいた。

▶ 沖野7丁目26-18 付近交差点の改良



▲この道路は、ここだけ四方向一時停止がなく事故率が多かったが、ライン及び止まれるの引き直し、更に道路の再舗装を行い安全を確保しました。

▶ 南小泉2丁目6-26 付近 側溝の改良



▲道路側溝に突起物があり、出入りにくいとの要望があり、道路課で突起部分を削除し、安全を確保しました。

大雨対策

宮城の萩大通り58か所、南下水道課に依頼し側溝の排水溝清掃を実施!

- 菅原正和ホームページ <http://sugawara-masakazu.com>
- 菅原正和 Facebook <https://www.facebook.com/masakazu.sugawara.5>
- 菅原正和メールアドレス sevnten_masa@mrb.biglobe.ne.jp
- 仙台市議会の様子はホームページからご覧いただけます▶ <http://www.gikai.city.sendai.jp>